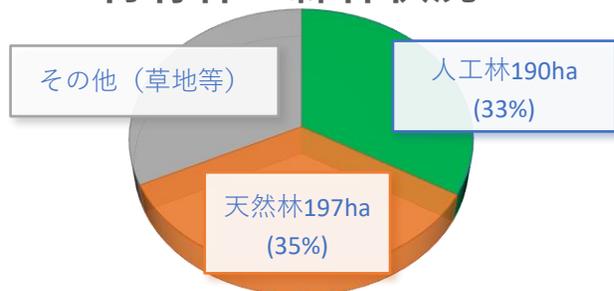


# せきかわ林政かわら版

復興から災害に強い森づくりをめざして!

## ○ 関川村有林の概要と課題について

### 村有林の森林状況



関川村が保有する「村有林」は森林情報（森林簿）上約570haあり、村内民有林面積の約9%を占めています。

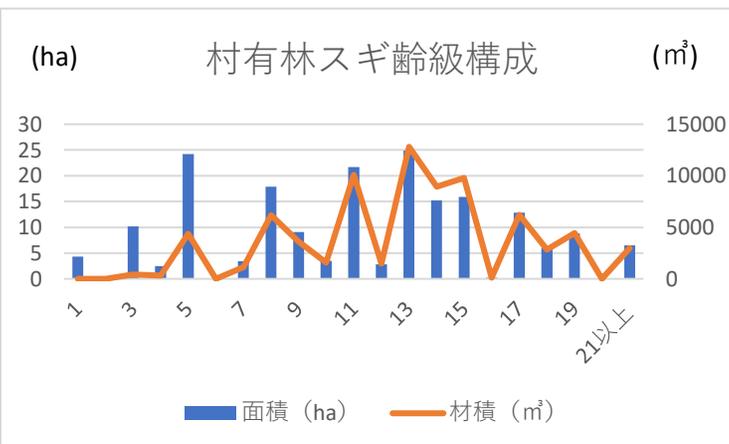
そのうち人工林が約190haで一部ヒノキ林がありますが、ほとんどがスギ林です。

一方、天然林（主になら類）が約197haの手つかずの資源が分散的に存在します。

人工林（スギ）の齢級配置では、比較的バランスが確保され、持続的な森林資源の活用が期待されています。

今後、資源の高齢級化が進行する中、森林の多面的機能を発揮する上で、資源の若返りにも取り組む必要から、計画的な伐採とともに更新を図ることで、「脱炭素化社会」の実現に「村有林」が地域の模範となることが望まれます。

村としては、このことを踏まえ、村有林経営についての見直しを考えています。そのためにも、資源の実態把握、資源活用のあり方などの方向性を整理する必要があります。



### 【村有林の管理状況】

区分	所在地区	台帳面積 (ha)	備考
直営	中東・朴坂・桂・高田・片貝・大石・安角・内須川・湯沢・幾地・沼・大内淵	377.1	
貸付分収	安角・大石・畑	92.2	水源林（旧緑資源開発公団）等
貸付	沼・幾地	56.5	
（借地）	下関・高田・小見	13.3	旧学校林
計		539.1	

## ○ 「関川村の山づくりを考える」懇談会

昨年8月豪雨災害の復興をめざす村の山づくりにおいて、適正（適期）に森林整備を進めるには、多くの森林整備に関わる事業者それぞれの「強み」を生かした連携の強化が重要です。マンパワー不足を相互間で補うことで「伐って、植えて、育てる」長期的な森林経営の可能性について探るための情報交換を行っています。

当面、「村有林」の森林整備において連携できる「モデル」づくりのため、継続した会議の開催を予定しています。

7/25 (第1回)



11/2 (第2回)



(メンバー)

- 関川村森林組合
- (株) 旭林業
- (株) 青葉組
- (株) 日本建機
- ※新潟県

## ○ 「いわふね林業塾」 inせきかわ

村上市との連携による林業チャレンジ事業として、数年ぶりに関川村を会場に開催しました。

地域の親子23名が参加しました。

初めに県職員から「森のはたらき」について講話の後、村有林（ヒノキ林）の枝打ち体験で汗を流し、「いわふね杉」を使った木箱づくり、きのこ栽培見学など行ないました。これを機会に、森林の大切さやふるさとへの愛着が育まれることをことを期待するものです。

（森林環境譲与税活用）



## ○ せきかわ「学びのもり」で「無花粉スギ」（花粉を作らない品種）植栽



10/7 今年度から新たに関川村と上関生産森林組合との協定により設定した、せきかわ「学びのもり」で、関川村緑の少年団10名が関係者と共に「無花粉スギ（コンテナ苗）」の植付けを行いました。

コンテナ苗は、通常の裸苗より根がコンパクトで、植付けも容易。また、植付け時期を選ばない特性があります。

また、国では「花粉症緊急対策」として、全国的に花粉を減らす取組が示されています。

環境に配慮した山づくり「伐って、植えて、育てる」ことを次世代に継承します。

（森林環境譲与税活用）

## ○ ものがたり・・・「緑は地球を救う」

地球温暖化の主な原因は、温室効果ガス「二酸化炭素」CO2です。CO2が増え続けると大変なことが！

南極の氷が溶け海面上昇、気候変動による洪水、渇水、砂漠化など私たちの生活に大きな影響があります。

光合成植物はCO2を吸収する働きがあります。

木もその一つであり一時的に貯めることができる「緑のタンク」です。しかし「緑のタンク」もずっと貯めておくことはできません。木も生き物でやがて寿命がきて、枯れて倒れてしまうからです。

大昔、木を腐らせる微生物（菌類：きのこ）が少なかったため、長い時間をかけて地下に堆積し、石油・石炭（化石燃料）となりました。

人間が使いすぎた、もう再生できない化石燃料を代替する再生可能なエネルギー利用をみんなで考えましょう！



## クマの出没注意！

県では、クマによる人身被害が多発していることを受け、「クマ出没特別警戒」を発令。自らを守る行動をお願いします。

（発行）

関川村農林課 農村整備班

内山・遠山

TEL:64-1447